

2) 動力脱穀機

(1) 用途

刈り取った後の稻麦の脱穀に使用する。
バインダーとの組合せ、わらを利用する場合や
小規模農家に適する。また、脱穀部を取外して運搬
車として利用できるようになっているものもある。

(2) 構造

自動脱穀機には自走式と定置式とがあるが、ここ
では、自走式を中心に説明する。構造的には、自脱型
コンバインの刈取装置や引起し搬送装置を除いた
もので、自走自脱機やハーベスターとも呼ばれる。

エンジン、走行部、脱穀部、選別部などからなる。
エンジンは、3.5~8.5馬力程度のガソリン又はディ
ーゼル・エンジンが使用され、この動力は、ミッショ
ンを経て、走行部、こぎ胴、フィードチェーン、
揺動軸、ファン軸などへ伝達される。走行部は、ク
ローラー式のほか、小型軽量型では車輪式（2輪+
尾輪）のものがある。

フィードチェーンによりこぎ室に供給された穀
穂は、こぎ胴で脱穀されて揺動板上へ落下し、そこ
で選別されながら、前方へ送られる。選別網上で吸
引ファンにより風選別された精粒は1番口へ落下し
コンベアで穀粒取出口へ送られ、また、未処理粒は
2番口へ落下して再度こぎ室へ送られる。一方、わ
ら屑などは、吸引ファンにより機外へ排出される。
また、脱穀済みのわらは排わら装置から排出される。

なお、定置式は、走行部がなく、エンジン又はモ
ータで駆動し、長尺スロワーなどを備えていること
以外は自走式とはほぼ同じである。

(3) 取扱い上の留意点

能率よく作業するため、バインダー等で刈り取っ
た穀穂は数カ所に集めて置く。こぎ胴回転数は、稻
麦とも同じものと、变速を行うものとがあるので留
意する。

(4) 安全作業のポイント

取扱説明書や安全表示ラベルを良く読み理

解する。

フィードチェーン等への巻きまれに注意し
する。

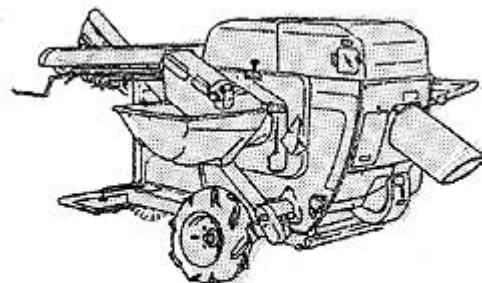
点検調整を行う時は、必ずエンジンと止めて
から行う。

あぜ越えや囲場の出入りなどでは低速で道
路・あぜに直角に行う。

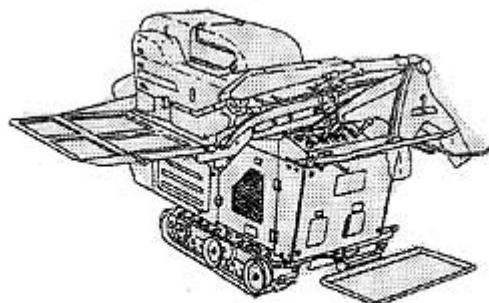
バックする時は、障害物との挟まれに注意す
る。

穂受け台などに人を乗せない。

トラックへの積降しにはあゆみ板を使用し、
途中で変速操作などをしない。



自動脱穀機（自走式・車輪式）



自動脱穀機（自走式・クローラー式）